

福林委員からのメッセージ

2/16 (土)

私論ですが「スポーツの価値」の普及には都道府県スポーツ協会よりもスポーツ競技団体を上手に使うのが一番効果的です。小生は長年にわたり日本サッカー協会に属し、理事、医科学委員長をしておりましたので、FIFA からのサッカー外傷・障害予防プログラムの普及をJリーグ、および各都道府県サッカー協会を通じて行いました。その宣伝のために「なでしこ JAPAN」を使い、Jリーグ、およびその下部組織のトレーナーを招集し、全国各地でその講演会、実技指導会を開催しました。当時世界チャンピオンになった「なでしこ JAPAN」を使えたこともあり宣伝効果は抜群でかなりのチームに普及しました（その費用はかなりかかりましたが、サッカー協会が全額支払ってくれました。多分当時として数千万円を超える費用がかかったかと思われます。）学術会議はサッカー協会ほど資金的に豊かではないので、どのように普及するかをお考えください。小生でしたら比較的金銭的に余裕があり、しかもスポーツ現場を抑えている、ドクター、トレーナーの参加が多い、臨床スポーツ医学会（毎年学会参加者 1500~2000 名）に依頼し、ここでシンポジウムまたは特別講演を日本学術会議からの依頼として組ませますが。

2/19 (火)

医科学委員長の山澤先生で小生の親友です。今年は 11 月 16、17 日にパシフィコ横浜での開催で約 2000 名の参加（スポーツドクター・トレーナーetc）が見込まれる、スポーツ医学関係では国内最大の大会です。現在プログラムはほとんど出来上がっており、そこに割り込ませる事になりますのでもし依頼する場合は、第 2 回会議でご決定の上、至急小生にご連絡ください。